

になつてゐたところ、之れが會社側との交渉を今回更生日本労働會會長柴田専兵衛に一任し同人より扶助料の請求があつたので、會社側では労働組合に依頼したるを不都合なりとし三月十九日右手柴某に對し解雇豫告なした爲之れを憤慨した柴田會長は更に同月二十五日扶助料（金五拾圓二拾五錢）並に退職手當（金七拾貳圓九拾錢）の要求をなしたるに會社側では扶助料の請求は容れたるも退職手當の要求は之れを拒絶した。

然るに柴田會長は之れに満足せず尙其の要求を繼續嚴談するもので會社側は三月三十一日會見回答約し當日會社事務所に於て工場長に代り田中勞務主任と會見し回答を追つたが要領を得ないので豫ねて準備しゐたる一般従業員の待遇問題に關する次の要求書を提出押問答中（同日午前十時半頃）其の回答如何を待ちつあつた従業員約二百名は突如汽笛を合圖に發電所に押し寄

せて「スキツチ」を切つたので工場作業は一時停止するに至つたのである。

十一、要求事項並に経過

要求事項

○ 本作業員に關する分

一、昇給に關する件

1、臨時昇給

イ、壹圓以下の者は壹圓貳拾錢迄引上ること

ロ、壹圓以上壹圓五拾錢迄の者は三割引上ること

ハ、壹圓五拾錢以上貳圓迄の者は一割五分引上ること

ニ、貳圓以上の者は一割引上ること

2、定期昇給

イ、壹圓五拾錢以上の者は年一回（一回拾錢以上）昇給の